

標茶町議会第2回定例会

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
5番	鴻池智子	1. RSウイルスワクチン予防接種対象を高齢者へ拡大をするべきである	<p>RSウイルスは2歳までに、ほぼすべての子どもが感染すると言われ、その後生涯にわたり何度も感染と発症を繰り返すといわれています。本年度4月より、妊婦の方を対象に予防接種法に基づく定期接種となり、妊娠28週から36週の人を対象となっており、赤ちゃんのRSウイルスによる重症化を約80%予防できるといわれています。</p> <p>現在、RSウイルス感染症に対する治療薬は乳児では発症を抑える薬がありますが、成人・高齢者に対する特定の治療薬はありませんので、基本的には症状をやわらげる対症療法が行われます。特に喘息・慢性閉塞性肺疾患・心疾患・糖尿病・慢性腎臓病などの疾患がある人や免疫機能が低下している人は感染すると重症化するとの事ですので、老人福祉施設等で集団感染等が危惧されます。</p> <p>このRSウイルスワクチンは、このような疾患を持っている人に効果があると言われており、近隣自治体でも公費導入に取り組んでいます。財政状況が厳しい状況ではありますが、予防医療の観点から高齢者に対する接種を検討するべきと思いますが、町の見解を伺います。</p>	町長	
		2. 「書かない窓口」の設置へ取り組むべき	<p>現在全国の市町村で導入が進んでいる「書かない窓口」の設置ですが、マイナンバーカードや本人確認書類を読み取り機にかざし、職員がシステム情報を入力する事で、町民の申請書記入の手間を省き、待ち時間の短縮や職員の業務効率化に大きな効果があると言われていています。職員減少傾向がみられる中でも町民に対するサービスの低下は防がなくてはなりません。</p> <p>この質問は以前にも行っています。現時点での進捗状況を伺います。</p>	町長	
8番	長尾式宮	1. 来年度の予算編成に向け、今から町内事業者と協議し、対策を	<p>今年3月に開催された議会では令和8年度一般会計予算が否決され、その後の臨時議会で約1億円の公共事業を上乘せし、可決された。もし、4月までに予算が可決しなければ役場業務だけでなく、小・中学校、給食業務、病院事業などすべての業務が停止し、町発注の事業の契約が出来なくなる危機的状況であった。</p> <p>年を追うごとに普通交付税が削減されている中、本町としては令和11年度に起債の償還額のピークを迎え、後、5年耐えなければならない状況で、今年度以降も厳</p>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
8番	長尾式宮		<p>しい財政状況である。</p> <p>今後も町内経済に与える影響は多大で、仮に町内事業者が減少した場合、除雪事業が困難になり、町内施設の維持補修が出来なくなり、物品の手配などに影響が出てしまう。また、事業所が減少するという事は人口減少に拍車をかけることになり、さらなる交付税の削減も免れない。</p> <p>一般的に事業者は長期的な目線で設備・人材に投資して事業を行っているが、人口の少ない地域では主に自治体発注に対応できる体制を敷いている場合が多い。</p> <p>そのことから次年度以降を踏まえ、今から町内事業者・経済団体と今後のまちの在り方を協議し、積極的に国へ予算獲得を働きかけるなど対策をとるべきではないか。</p>		
		2. 多和平の観光施設の整備をすべき	<p>最近では「ぼん・ぼんゆ」が話題になることが多いが、本町には魅力的な観光施設・スポットが点在している。その中でも多和平は以前より書籍でも取り上げられることが多く、風光明媚な道東観光のスポットとして知名度がある。</p> <p>しかし先日、多和平を訪れてきたが、炊事場の屋根は倒壊で撤去された状態で炊事場も不衛生。グリーンヒル多和のウッドデッキのビニールはぼろぼろに裂けている。展望台わきの小屋も「初日の出」の行事以外で使用しているのかも不明であり、これから本格的にキャンプ場利用者を受け入れるのであれば、使用料をとっている以上、芝生の手入れや場内施設の整備をすべきではないだろうか。</p> <p>多和平には立地の良さから毎年訪れてくれる観光客もいると聞き、本町において、多和平は観光の要ではないだろうか。</p> <p>施設を管理する者の責任として目的に沿った維持管理をすべきであると考えているが所見を伺う。</p>	町長	
		3. 情勢を見極めた一次産業の推進をすべきでは	<p>本町は長らく一次産業、特に酪農業で栄えてきた地域で、今も基幹産業である事は変わらない。しかし、毎年10件前後の農家が何らかの理由で離農し、現在では搾乳農家はピーク時の約3分の1以下にまで減少している。</p> <p>近年の温暖化の影響で十勝管内の農作物が一部、育たなくなってきたという話も聞く。ある食品加工メーカーは釧根・オホーツク管内に目を向け始めており、また、近隣地域ではメロンやイチゴ、ワイン用のブドウ栽培のほか陸稲でコメも栽培している。</p> <p>気象条件や昨今の酪農情勢・農作物市場の動向を鑑みると、本町でも将来的に畑作農業に地域発展の可能性があるのでなかろうか。</p>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
8番	長尾式宮		本町における一次産業の多様化は新たな新規就農者・人口増につながるのではと考えるが所見を伺う。		
1番	深見迪	1. 本町でもパートナーシップ制度の早期導入を	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年秋、北海道市長会は知事に対して、パートナーシップ制度の導入を求めたことは以前にも述べたが、その時からさらにパートナーシップ制度の導入は進み、公益社団法人「Marriage for All Japan (マリフォー)」の調査では全国の人口カバー率は約 93.69%になったと報告されている。また、今年4月で北海道では47市町村が制度を導入していると調査の結果を出している。 ・これらを踏まえた上で、本町のパートナーシップ制度の導入についての進捗状況について、いつから実施するのかその見通しを聞く。また、実現した場合、どのような権利が与えられるのかその内容について聞く。 ・性的マイノリティーの人たちにとって、パートナーシップ制度は極めて限定的な権利の獲得でしかない。SDGs・ジェンダー平等も目標とする本町の姿勢として、性的マイノリティーの人たちの人権を尊重すること、また、来年に最高裁の判決を控えているが、同性婚を認め、尊重することについての町長の所見を再度聞く。 	町長	
		2. 町民の合意のもとでの行財政改革を求める	<ul style="list-style-type: none"> ・町議会に周知あるいは議論されないまま、福祉をはじめ様々な住民サービスが後退あるいは切られている状況が多発しているが、次の点について聞く。 ・様々な補助金減額、打ち切りなどについてどのように実施してきたか。該当する団体、個人は納得しているか。 ・いくつか例を出して聞くが、5月1日付で7月1日から「通所リハビリテーションサービスの廃止」のお知らせがサービス利用者に送られてきているが、通所リハビリ廃止の要因は何か。また、利用者は何名か。廃止される利用者で通所の手段を持たず困っている人はいないか。 ・通所リハビリが廃止されると通所の手段で費用が増すことは考えられるか。また、窓口負担が増えることが発生しないか。 ・有償ボランティアで実施されている交通安全指導について、予算がないので交通安全指導の回数を減らす話が聞こえてきたがそれは事実か。事実とすれば何をどのように減らす考えでいるのか。 ・一例を挙げたが、機械的に各セクションの予算を削るのは納得がいかない。予算を削減することが住民生活にどのように影響を及ぼすのか、その内容を理事者は 	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
1番	深見迪		<p>十分検討しているか。予算削減の規模だけを住民と直接かかわっている各課、各係に丸投げをしているのではないか。そうだとすれば改めるべきと考えるがどうか。</p> <p>・町民に対する説明会が各会場で行われたが、全体として町民の理解と納得が得られたと考えているか。また、どのように町民生活に影響が出るのか、具体的な金額面等の負担増などが明らかになっていない中での説明会であったと思うが、予算を含めた行財政改革案ができた段階で再度説明会を開くべきと考えるがどうか。</p>		
10番	渡邊定之	1. 小・中学生に酪農・畜産の授業をさらに充実させてはどうか	<p>本町でも新規就農対策等の取り組みは行われているが、農家戸数は減少を続けており、特に後継者のなり手が少なく、地域の集落維持が深刻な状況である。</p> <p>小学校社会科郷土読本「わたしたちのしべちゃ」などを使用し、すでに授業などを行っていると思うが、さらに今後、本町の基幹産業を守り発展させるために、義務教育でも授業のなかで酪農畜産業の現状や課題、将来像などを学ばせることにより、早い段階から関心を持たせることが酪農を基幹産業としている標茶町にとって大事と考えるがどうか。</p> <p>生活科や社会科などで搾乳ロボットでの搾乳の様子を見学したり、農家の話を聞くなど、現場学習を通じて早い段階からの興味の持てる取り組みができないか。</p> <p>多種多様な酪農、畜産業の知識や体験を得る機会を教育現場から伝えていくことはできないか。</p>	町長 教育長	
11番	類瀬光信	1. 5年後の町の姿を町民に示すべきではないか	<p>平成24年10月9日と11月9日の2日間、総務経済委員会は「標茶町の財政状況」に関する所管事項調査を行っている。当時の財政担当課は、現状のままで平成25年度の財源不足が約8億7,900万円、平成34年度（令和4年度）では約20億7,900万円の財源不足が見込まれるとしていた。また、消費税法及び地方交付税法が改正されれば、平成34年度（令和4年度）の財源不足は約22億9,600万円となり基金残高は平成28年度以降減少し、平成39年度末（令和9年度末）には底をつくと予想されるとしていた。注目すべきは、消費税法及び地方交付税法が改正されれば基金の枯渇はさらに2年早まり、平成37年度末、つまり令和8年3月31日の時点で基金が底をつくと予想していた点だ。そして、こうした財政に関する厳しい将来予測に対して、行政改革や歳出抑制、さらには起債の借り換えなどによって基金残高を約60億円まで増やした経緯がある。その基金を8年間でおよそ50億円減らしたことは痛恨の極みと言わざるを得ない。</p>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
11番	類瀬光信		過去には10年以上先の財政状況を的確に予測していた。とすれば、現在取り組んでいる行財政改革推進計画を実行することによって、5年後の標茶町の財政状況がどこまで回復し、町の姿や町民の生活がどう変わるかもしっかり予想されていなければならない。行財政改革推進計画に関する町民説明会では、痛みを伴う改革の先が具体的に示されていなかったもので、その点について町民が納得できる内容を示して欲しい。		
		2. 家畜糞尿処理共同利用施設を有効利用すべき	現在、標茶町育成牧場の管理下にある「磯分内美幌地区堆肥舎（以降、美幌堆肥舎）」については、施設の老朽化やターナーの故障により実質的に機械庫となっている。 肥料価格の高騰が酪農・畜産の経営を圧迫している現状を鑑み、本来の目的である良質の堆肥を製造する施設として再稼働させるべきではないか。町としての使用にかかわらず、使用対象の範囲を拡大すれば町有財産の有効活用になると考えるが、どうか。	町長	
4番	鈴木裕美	1. 町有財産（カラマツ）の売り払いについて	数年前から木材市場において、カラマツ材の価格が上昇し、現在も高値止まりの状態にあると聞いている。こうした時期に販売すれば、財源確保の一つとしての効果もより期待できると考え、以下について伺う。 1. 町が保有するカラマツ造林地の面積とそのうち伐期を迎えている面積及び蓄積。 2. 今年度の伐採処分の計画（面積・蓄積）について伺う。また、さらに上積みする考えはないか。 3. 伐採跡地への再造林について、どのように考えているか。	町長	
2番	櫻井一隆	1. 温泉観光施設「ぼん・ぼんゆ」について問う	5月18日から始まった「標茶町行財政改革推進計画」町民説明会は町内7カ所で実施され、出席者数は171名であった。質問の中で多かったのは「ぼん・ぼんゆ」であった。しかし、町からの説明は曖昧で、「手持ち資料が無いので後日に回答する」として質問者から叱責されていた。何故、即答しなかったのかその真意を問う。また、事業内容を明確に皆さんに知って頂くために以下について質問をする。 1. 調査・設計費を含め、増改築の本体事業費はいくらか。 2. 温泉の掘削経費はいくらか。 3. 温泉水排水工事はいくらか。 4. 貯留池埋め立て工事費はいくらか。	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
2番	櫻井一隆		<p>5. 外構工事費はいくらか。</p> <p>6. 無電柱化工事費いくらか。</p> <p>7. 「ぼん・ぼんゆ」にかかった事業費の総額はいくらか。</p> <p>8. 事業費に係る一般財源や補助金等の財源内訳について伺う。</p> <p>9. 補助後の残金には辺地債での借り入れをしているがその額は。</p> <p>10. 辺地債の償還について単年度の償還額はいくらになるか。また、単年度の償還額に対する交付税措置はいくらか。</p> <p>11. 指定管理料は令和6年度は3,800万円、令和7年度から4年間は3,200万円で、合計1億6,600万円で間違いはないか。このほかに施設維持管理費として、年に約1,000万円の持ち出しがあるようだが、その内容を聞く。</p> <p>12. 令和7年度の営業収支はどのようなになっているのか。また、今後の経営予測について町長の考えを聞く。</p>		
9番	松下哲也	1. 次期町長選に向け現職町長としての姿勢を伺う	<p>令和8年第1回定例会において、同僚議員より次期町長選に出馬されるのか、出馬されるのであればどのような覚悟を示されるのかと質問されている。その時の答弁で、この局面から逃げない、課せられた責任は改革の筋道を明確にし、町民と痛みを分かち合い将来の世代に持続可能な標茶を引き継ぐことだと考え、現時点で行財政改革の推進に最大限取り組む所存であり、しかるべき時に次期町長選に向けて進退を判断したいと答弁されている。</p> <p>2期目は「もっと元気なしべちゃへ」をスローガンにして、かや沼温泉宿泊施設のオープン、小中学校の給食費を無料化、合葬墓の建立等を行ってきました。その中でも特に地域おこし協力隊の活用による地域資源の発掘、タウンプロモーションによるまちの魅力発信、ふるさと納税の活用により特産品の開発、知名度アップの機運が高まってきていることは高く評価したい。</p> <p>しかし、ウクライナ紛争が起こり世界の情勢が大きく変化し、行財政運営における急激なコストアップに見舞われたのも事実であり、厳しい財政状態におかれている。昨年6月に行財政改革推進計画を立て検討を行い、本年5月に8会場で町民説明会を開催された。町民の間では今後の町政運営や方向性に関心が高まっている。</p> <p>現職町長として残された任期もあと4ヶ月強となったが、町政運営の成果と課題をどのように認識しているか伺う。また、その総括を踏まえ、今後の町政の継続性や方向性についてどのように考えているか伺う。</p>	町長	